

シャモニ・モン・ブランの9日間

HUAC No.171 石田真一

2014年11月1日、HIS でエミレーツ航空のドバイ経由ジュネーブ行きの往復航空券を手配する。これで、もう引き返すことはできない。どうしても2015年の7月30日羽田発0:30のドバイ経由ジュネーブ行きの飛行機に搭乗するしかなくなった。

シャモニ・モン・ブランのアルプ・プランニング・ジャポンの岡村さんにも、行程表をFIXしてメールで送付する。(A.P.Jとは、行程や費用のことでいやになるほどメール連絡した。)

航空券も宿の宿泊券も全てプリントアウトでOKには驚いた。

2015年 グランド・ジョラス直下、氷河徒行行程 -----

- 7. 29(水) 富山17:09→羽田国際線ビル20:28
- 7. 30(木) 羽田 0:30→ドバイ(乗り換え)→ジュネーブ13:20→シャモニ15:00頃
- 7. 31(金) 時差ぼけ調整:エーギュード・ミディへ
- 8. 01(土) 夕方:神田氏、ガイド:アントワヌと打ち合わせ
- 8. 02(日) シャモニ9:00→モンタンペール10:00→メール・ド・グラス→レシヨ氷河
→レシヨ小屋(2431m)16:00
- 8. 03(月) レシヨ小屋7:30→タルフル氷河→クーベルクル小屋(2687m)13:00
- 8. 04(火) クーベルクル小屋7:30→メール・ド・グラス(2330m)→氷河基部へ11:30
→シャモニ
- 8. 05(水) 予備日:シャモニ散策
- 8. 06(木) 予備日:シャモニ散策
- 8. 07(金) シャモニ9:30→ジュネーブ11:00、ジュネーブ15:15→ドバイ23:35
- 8. 08(土) ドバイ2:50→成田17:35→空港第2ビル19:41→上野21:10→富山23:15

7. 30(木) シャモニへ

29日中に富山から初めて北陸新幹線に乗り東京へ。30日、羽田からエミレーツ航空で夜間飛行。東南アジア、インド経由でドバイ到着。座席の前面にはパネルがあり、飛行経路のシミュレーションを示したり、映画や音楽を楽しめるようになっている。このシミュレーションでどこを飛んでいるかわかるようになっている。

ドバイでの乗り換えビルは一箇所だとエミレーツ航空の案内のH.P.には載っていたが、インフォメーションで聞くと「このビルではない。もうひとつのビルだ。」「列車で移動しなければいけない。」と言われ焦ってしまった。道理で到着後、バスに長く乗せられたはずだ。航空関係者らしき人に聞き、列車乗車口に何とかたどり着き、ジュネーブ行きのビルの航空機搭乗口にたどり着く。

ドバイからはイラク、トルコ上空を通りイスタンブールからヨーロッパに入る。イラクはずっと砂漠。イラク戦争の時に国連軍が着ていた迷彩服と同じくやや白っぽい色の大地がずっと広がっている。

白っぽいのは塩分のせいだろうか。

トルコに入ってから、ようやく緑が見えてくる。イスタンブールの東の黒海沿岸は見えるが、イスタンブールは見えなかった。

ブルガリア、ユーゴスラビアからアドリア海の北部からイタリアに入る。アルプスに入ったのは山腹に雪が見え初めてわかる。エミレーツ航空のサービスなのかモン・ブランのすぐそばを飛んでくれる。

隣の席のドバイの少年が「エクスキューズミー」と盛んに言いながら写真を撮る。私は半年前に窓側を予約してあるから当然よい写真が撮れた。



飛行機からのモン・ブラン

ジュネーブに着き、荷物の吐き出し口で荷物を待っていると「石田さんですか？」と尋ねる女性がいる。神田美智子さんだった。現地の運転手を予約していたのに意外であった。

ジュネーブからは1時間半くらいでシャモニに着く。今、モン・ブランは落石事故があって入山禁止になっているという。



シャモニ・モン・ブラン駅

ホテル・グスタビアはシャモニ駅の前にある。

ホテルで神田女史は、私が山にいる間の食事料金を差っぴく交渉をしてくれた。それは、以前メールで交渉したことなのに、どうも連絡がうまくいってないようだった。

私の部屋はホテルの4階の屋根裏部屋で、夜は暑くて12時ころまで眠れないことに気づく。フランスでは一階がベースメント、写真では4階建てに見えるが屋根裏の5階が4階の私の部屋だ。向かいの部屋の外国人も暑くてかなわないと言っていた。



ホテル・グスタビア
(4階の上の屋根裏が実は4階)



モンタンベール行きシャモニ駅
から見えるシャモニ針峰群

7.31(金) エーギュ・ド・ミディ観光

7月31日は時差ぼけ解消日になっていた。天気が良いのでエーギュ・ド・ミディ駅からロープウェイでエーギュ・ド・ミディへ行くことにした。



エーギュ・ド・ミディ駅



エーギュ・ド・ミディから見る
グランド・ジョラス西尾根

エーギュ・ド・ミディ(3842m)は快晴で360度見晴らすことができた。5年前の6月に来たときは全てがガスの中だった。今回は遠くマッター・ホルンまで見える。



マッター・ホルン
(左の山はわかりません)



シャモニ・モン・ブランの町



モン・ブラン

8. 01(土) 唯一の雨の日

明日から入山だというのに朝から雨。夕方から明日からの打ち合わせ。何時という指定がないので、ホテルでじっとしているしかない。

雨が上がると、観光客たちは街路のテーブルに座り、何を話すのか集まってくる。シャモニの町は1037mなのに、なぜか Elevation 1904 となっている。



Elevation 1904

4時過ぎに、部屋にいと電話がなる。思わず「yes」と答えると、「神田です」と言うので、明日からの予定の話と装備のチェックをするので部屋に来てもらう。装備チェックを済ませると、明日9時にホテル前で落ち合うことを約束して、二人は小雨の中帰っていく。「9時では遅いのでは？」と思いながらも任せるしかない。

ホテルには毎日翌日の天気予報が書かれる。ここでは、降水確率ではなく晴天の確立が表示される。数日後までは天気はよさそうだ。

水も多くのヨーロッパの国では有料だが、シャモニの水道水は飲める。ジュネーブからシャモニまでの車の中で神田女史に「シャモニズ、ウォーター、プリーズ」と言えばいいと聞き、その通り頼んでいた。毎回、ペット・ボトルを持って私が頼むので、宿舎(食堂やバーと一緒にいる)の女の子に「シャモニズ、ウォーター。シャモニズ、ウォーター」とからかわられる。ペット・ボトルを出して、「ウォーター、プリーズ」と言えばいいのだと後で気づく。

日本人は意外と少ない。韓国人の団体が多く、奥の食堂は韓国人専用だ。私が韓国人でないとわかると、夕食はテラスの食堂でヨーロッパ人と一緒に食べることになる。メニューのリストが英語でプリントされて置かれている。前菜、主菜、デザートとなんとなくわかるのだが、一度前菜に”mule”とだけ書いてあった。出てくるまで何か全くわからなかったが、”ムール貝”であった。ナイフもフォークも使えないので、手で持ってかぶりついた。

8. 02(日) メール・ド・グラス、レシヨ氷河からレシヨ小屋へ

9時にアントワヌがホテルに迎えにくる。10時に電車がモンタンベール(1906m)に着く。水平道をしばらく行き、メール・ド・グラスに降りる鉄製の梯子になるところでロープをつなぐ。スリップしたら絶対止めてくれるかなとも思いながら、どんな確保をしているかも見られない。ロープは6mmを使っている。



メール・ド・グラス

メール・ド・グラスではクランポンを1時間ほど装着する。氷河の上を小さな川が流れている。レシヨ氷河の分岐では氷河の真ん中ではなく右岸側に行く。途中でまったく休まない。12時頃、やっと休憩。レシヨ氷河に入ると初めてグランド・ジョラスの北壁を前面に見ることができる。



初めての
グランド・ジョラス北壁

レシヨ小屋までもほとんど梯子でロープを繋いでいく。レシヨ小屋に着いたのは16時頃。



レシヨ小屋
岩壁に張り付いて
作られている

レシヨ小屋に着くと、韓国人4人がテントを張って北壁を狙っていた。5日間待っているのだけれど、状況が悪くて取り付けないと言っている。ベルグシュルントが3m以上もあり、とても取り付けないと言っている。私のガイドも、北壁を見て「今の状況は条件が悪い」と言っている。彼らは明日は下降しなければならぬと言っている。(翌日、ロープを背負って降りて行った)

レシヨ小屋の小屋番は女の子一人だ。寂しいからか猫を一匹連れてきている。ガイドのアントワーヌは、何の話があるのか1時間以上も彼女と話をしている。アントワーヌはサッサと昼食を頼んで食べている。私にも何か食べるかと聞き、結局オートミールに。そのせいかどうか少し食べてもどしてしまった。(軽い高山病かとも思ったが、どうもオートミールのせいらしい)

小屋の宿泊者は今のところ私たち2人だけだ。装備はプラスチックの四角いかごにのっている。靴はベッド(広い2階建て板の間状になっている)の下に入れる。

夕方になるとフランス人の5人組(女子が1人)がやってきた。一緒に夕食を取るが、どれが誰の食事かわからない。けっこう適当だ。



グランド・ジョラス北壁



レシヨ氷河を歩く

8. 03(月) レシヨ小屋からクーベルクル小屋へ



グランド・ジョラスの朝焼け



モン・ブラン



飛行機雲とグランド・ジョラス

レシヨ小屋を7時30分頃出る。ここから、クーベルクル小屋手前にあるタルフル氷河までは岩場の連続だ。ガイドとロープを繋いだまま、足場にはプレート、手の高さには鉄筋などでホールドが作ってある箇所を通る。足場のプレートは10cmくらいだ。ずっと緊張感が続く。4時間程でようやく抜け出す。それで、その区間の写真は無い。タルフル氷河と言ってもモレーンだけだ。

ここでようやくまわりの状況がわかる。ここからは、グランド・ジョラスとモン・ブランの両方を見ることができる。ここからクーベルクル小屋の間でだけ、グランド・ジョラスとモン・ブランを同時に見ることができるのだ。

氷河の右岸のどこからクーベルクル小屋に行く道があるかわからない。じっと見ると、黄色いポイントが2箇所マークしてある。右岸に渡ってから、ガイドのアントワヌに「後どのくらいだ」と聞くと、「10分だ」と答えるが、私には1時間掛かった。小屋着13時。



ロープを解くアントワヌ



旧クーベルクル小屋



ケーブルクル小屋



グランド・ジョラスをバックに

ここでも小屋に早く着いたほうだ。ベッドの段はどれも空いていた。ベッドを確保して、バルコニーに出て日向ぼっこをしながら、モン・ブランとグランド・ジョラスを心行くまで眺める。

アントワヌはかつてに昼食を取っているが、私にはレシヨ小屋でもらったサンドイッチがある。これも食べるのが大変なくらい大きいのだ。

夕食は、座席表がありそれで決まる。決まるまで3回移動させられた。私たちの夕食が終わった頃、女性の日本語が聞こえてきた。気楽な話をしている若い女の子2人連れだった。「思ったよりてこずったね」と言っている。メール・ド・グラスから直接上がってきたようだ。そこは、私の明日の難関の90度の傾斜のある梯子のあるところだ。写真を撮るのに、邪魔だからどけと日本語で言っていた。

8. 04(火) グランド・ジョラス、メール・ド・グラスよ、さようなら

クーベルクル小屋7時30分発。問題の90度の梯子も難なく乗り越える。もちろん、ガイドとロープを繋いだままだ。メール・ド・グラスに降り立ち、観光客の来る氷河基部まで下降する。そこで、氷河に穿たれた観光用のトンネルに入る。11時30分着。

天気はずっと良く、ラッキーな山行だった。これで、グランド・ジョラスと氷河ともお別れだ。



メール・ド・グラス

モンタンバール鉄道に乗り、シャモニに下る途中で雨が。それにもわか雨だった。同じ列車には昨日の女の子たちと日本人ガイド(A.P.J.のガイドらしい)も乗り合わせている。日本人ガイドはしきりにアントワヌにチベットがいいと勧めている。

シャモニに降り立ち、アントワヌにお別れだ。

アントワヌに「ロープを解く」の写真を送ったら何枚かの写真を送ってくれた。



モン・ブラン
初登頂者のパカールとバルマ
(指の先がモン・ブラン)



シャモニの教会とブレバン山



教会のステンドグラス



メール・ド・グラスとレシヨ氷河(左)、タキュル氷河(右): 絵葉書